

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372800914		
法人名	医療法人 荒瀬会		
事業所名	グループホーム 年輪		
所在地	上益城郡甲佐町緑町359-9		
自己評価作成日	平成26年11月25日	評価結果市町村受理日	平成27年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成26年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人様はもちろん、御家族様との関係も密にして、いろんなご意見を伺いながら現在の生活を維持していけるように援助を行っている。又、日々の生活を観察し、定期的に勉強会やケア会議を開催しスタッフ間のケアの統一を図っている。また入居者様に安全で楽しく過ごして頂けるようスタッフが笑顔で優しい気持ちでサービスが出来る様心がけている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成15年に開設したホームでは、高齢化(98歳を筆頭して平均年齢90歳)や平均介護度3.8と重度化が進み中、職員は業務中心から脱却し、入居者を中心にしたケアへと変革を図っている。開設時からのホーム長をもとに、職員育成を課題としての毎月の勉強会や入居者の身になって考えようとする姿勢を目標に掲げ、連携強化や情報の共有化及びケア統一に繋げている。職員の明るい寄り添いのケアや繰り返しの言葉にも丁寧に対応する姿に、入居者も職員への気遣いや“ありがとう”等感謝のを持った生活ぶりに目標の成果が表れている。系列のグループホームや老健での運動会参加等に「みんなでするのが楽しい」との入居者の声も聞かれており、入居者の最終章に彩りとして生かされている。今後も家族の協力を得ながら、少しでも長くホームでの生活が続くよう支援頂きたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年輪は開設当初より理念を設定し事務所内、廊下に掲示意識付けを行っている。理念の見直し検討中	開設時の理念を継続する中で、職員の入れ替わりや入居者の重度化という現状に、入居者を中心としてホームとしての基本に立ち戻り、目標を掲げている。入居者の気持ちを感じ、笑顔で対応することや丁寧な言葉使い、入居者への話しかけ方法(分かり易く)を掲げ、毎月の勉強会による意識向上を図っている。また、管理者は職員のケア対応や接遇などその都度指導している。	開設して10年も過ぎた中で、重度化や身体的な低下等入居者の状況は大きく変わってきている。開設時の理念の見直しが検討されており、現状に即した理念を全員で検討されることが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の隣保班には参加しているが、近隣から出向いてこられるまでの交流は出来ていない	隣保班として回覧板の受け渡しや川の清掃活動・花植え、地区の老人会等に参加し地域との交流に努めている。また、近くの商店での買い物や塵だしに入居者と一緒に出かけたり、地元住民の方からの野菜の差入れの他、玄関に子ども神輿等も来てくれる等地域の中での生活を継続させている。	入居者の身体的な低下や高齢化にホームから地域に出かけることは困難の状況にある。今後も、近隣住民にあいさつや声掛けを継続されることで、気軽に訪問できる環境とされることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者の高齢化や状態悪化のより、ホーム内での介護量が増加しており地域での活動に参加できていないのが現状である	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、年6回開催している中で活動報告や近況報告などを通して、運営委員さまに活発な意見を頂いている	運営推進会議は行政・区長・民生委員・家族代表をメンバーとして、役場との日程を調整し2ヵ月毎に開催している。入居者の現状や職員体制及び活動を報告し、全員に意見を求めている。行政からの時節に応じた注意事項や区長による地域行事等の発信が敬老会参加等として生かされている。また、消防署や消防団の参加による火災訓練を会議の中で行なう等効果的な会議としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での機会を利用し情報や状況についての交流を行っている。地域包括センター等の行政機関については、H26.11月より参加いただく予定	運営推進会議開催日程調整や介護認定申請に出向き、情報交換を行っている。また、福祉用具や受診対応相談等不明な点は随時相談しながらケアに反映させており、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしない」という目標に向け、スタッフ同ケアの統一を図っている。月1回の勉強会で繰り返し認識を深めたい	身体拘束・虐待防止について、外部研修に参加した職員による復講や毎月勉強会を開催し意識強化に努めている。家族に説明の上、転倒防止対策に4点柵を使用し、入居者の「帰らない」との言葉を帰宅願望と捉え、言葉がけで納得してもらったり、職員同士も声をかけあい、所在確認の徹底により玄関を開錠する等自由な環境を作っている。勉強会の中で意識やケア統一を図っているが現場で実践できているか不確信としており、今後も入居者を中心とする掲げられた目標達成に取り組まれることを望みたい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加することはあるが、高齢者虐待についてのホーム内での学習は不十分である為、学習の機会を定期的に持つ必要がある		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援、成年後見制度についても研修の機会がない為、内容についての理解は十分ではない。今後の課題である		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には運営規定に沿ってケアやサービスについて説明し同意を頂いている。また不安や疑問などある場合には、来院時や電話で対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者、家族と対話を持ち意見を頂いているが、言いにくいことは意見箱を活用して頂くよう説明している	管理者は職員に入居者の立場や身になって考えるように指導しており、職員は常に入居者に寄り添いながら要望等を聞き取りしている。夜勤時や1対1のケア時に職員への労いや感謝の言葉等も出されている。毎月の利用料支払を持参払いとし、家族とのコミュニケーションに努め、意見や要望等を収集している。また、運営推進会議も問題提起の場として生かされ、家族の立場を理解し、玄関先に意見箱・筆記用具・メモ用紙を用意している。	家族の面会時に他の入居者や職員との歓談等もされている。更には、家族同士や職員との交流の場を検討されることを期待したい。家族の忌憚りの無い意見や要望を収集し、ホーム運営に反映されることが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員によるミーティング(ケア会議)を開催し意見や要望を述べてもらうようにしている。また管理者と職員とのコミュニケーションを図りケア会議での不足を補っている	職員は業務内容と入居者のケアに対する気づき等の2冊のノートを使い分け、日々情報を共有している。毎月の業務ケア会議を職員との意見交換の場として業務変更反映させたり、入居者になった模擬訓練やアンケート等を行っている。ホーム長は日々職員とのコミュニケーションを図り、職員の相談に応じたり、適時のアドバイス等により働きやすい環境を築いている。	グループホームとしては職員同士の良好な関係や風通しの良い関係が作られている。更には、隣接するデイサービスとの人的関係、協力体制等も含めた関わりについて協議されることを望みたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修等、職員が行きたい研修に行かせていただきスキルアップを目指している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の介護力を把握することを目標とし、職員全員がケアの統一ができるよう検証、実践しスキルアップを目指している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にもう1ユニットGHがあり情報の交換や技術の向上の為連絡をとりあっている。GH上益城支部会で意見の交換を行い更なる向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中でのやり取りや会話が不自由な方に対しては、状態や表情により理解を深めるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、説明を行い要望をしっかりと受け止め、家族が話しやすい環境を作っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、サービス計画担当者、家族(利用者様含む)で聞き取りを行いもれのない支援を心がけている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な会話を多く取り入れ利用者様の思いを察し、共感できる関係を作っている。また尊厳の保持に職員全員で取り組んでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が利用者と生活している中で思いを把握して家族へ伝えることで、協力関係を築き家族とのコミュニケーションを取りやすくしている。面会時居室へ行き家族の意向をプランの中へ取り入れている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域での散歩や近所のスーパーでの買い物など、ホーム外へ出かける機会は日常的に作っている。また、知り合いの方等に会った時はホームへの来訪の声掛けをしている	家族の訪問や近所の方から情報を得て、家族との外食や仏様参り、誕生日に家族と出かける方等家族との関係に勝るものは無いとして、入居の際に家族に協力を依頼している。また、ホームの場所そのものが、入居者にとっての生活圈や馴染み深い環境であり、米寿の祝いに元区長が訪問されたり、かかりつけ医の継続は知人との再会の場となり、ホームにも立ち寄りを依頼し、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数の為、ご利用者の個性を大切にし集団での生活を過ごして頂いている。時には、ご利用者間でトラブルが起こることもあるが、お互いの訴えを聞きながら、関係の修復を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域密着のため、退所されたご利用者の御家族と会う機会も多く、そのたびに現在の様子を聞いたりしながら、相談や支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自らの思い、希望を表出できる方が少ないが、生活歴や普段の生活などからご本人の思い意向に添えるよう考えている。	入居者は言葉で意思を伝えることが困難な状況にあり、生活歴での把握や、普段の生活、表情や行動により推察し、個々の思いの裏にある真意を考えながら、ケアに反映させている。入居者の繰り返しの言葉にも耳を傾け、共感・受容する姿勢で臨み、ケアノートで情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書、看護サマリー、家族や知人などから情報収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各スタッフが日々の生活の支援を通して、変化や状態を観察し、申し送り等で共有しようと努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者が一堂に会して話し合う機会が少なく、計画書が現状に追いついていない場合もあり今後の課題である	本人の望む生き方や生活歴等を把握し、介護計画週間記録により日々チェックしている。毎月のケアカンファレンスや担当職員とケアマネジャーによる半年毎のモニタリングにて現在の課題と次にプランに反映させるべき事項を見極めている。また、退院後の見直しや、介護認定更新時にはアセスメントから見直している。QOLの向上に向けたプラン等具体的なプランが作成されている。	家族はあまりケアへの要望は出されていないようである。家族の訪問される機会を担当者会議としてケアマネジャー・担当職員との話し合いの場を作られることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録内容はまだ不十分な点もあり、気づきが反映されにくい現状がある。記録の必要性や仕方について、更に学んでいきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度ひとりひとりに発生するニーズに対し、出来る事、出来ない事があるがまずは検討し対応を考えている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、民生委員、町の福祉関係者の方々と情報を共有し、意見交換を行いながらご本人が喜ばれ、生き生きとられる状態や機会をつくれるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃よりかかりつけ医師や、来苑する看護師へ情報提供や相談を行い、状態を把握し連携を密にしている	隣接する母体医療機関で対応できる科目(内科・外科・整形等)については、全員が母体をかかりつけ医としており、休日受診や往診での対応は入居者や職員の安心感となっている。日頃から母体看護師との相談や連携を図り、主治医からの紹介で専門医を受診されたり、訪問歯科を取り入れる等入居者の病状に合わせた適切な受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々支援する中で、変化や気づきを職場内の看護師や訪問看護師へ報告、相談し受診や看護が受けられるよう判断を仰ぎ対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報を提供し退院時にはサマリーにて情報交換を行っている。日頃より病院関係者との連絡・相談も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の方針を本人・御家族へ説明している。また、実際にご入居様が重度化・終末期に入られた際にその後の対応や意思を確認している。	入居時に重度化された場合のホームに出来る対応として、医療への依存度が高くなると入院となる事を伝えている。家族の要望である「最期までホームで」との思いに応え、母体看護師等との連携により終末期ケアに取り組んだ事例もある。また重度化や終末期については、その都度家族と話し合い、本人にとっての最良の支援を行うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修等で対応を学んである程度の知識はあるが、全ての職員の実践力については、重ねて訓練の必要があると思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練・避難訓練を行っている。内1回は必ず区長、町職員、消防団に参加していただいて指導していただき改善につなげている。今後は夜間を想定した訓練が必要	消防署や消防団と共に運営推進会議で火災避難訓練を実施し、指摘事項については改善(消火器の場所の明示)したり、法人上層部へ依頼(道路の整備)している。又、避難誘導の参考に各居室には入居者の歩行状態が表示されている。防災機器の点検や、業務日誌の中で火元チェックを行い職員への意識付けとしており、有事の際は母体との協力体制を図っている。	非常時の避難場所については運営推進会議で地域の情報を収集しており、自然災害についての話し合い等で職員間での意識付けや共通認識とされる事が期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から、個人の誇りやプライバシーを損ねない対応を職員間で話し合い尊厳の保持に努めている	接遇やプライバシーの研修を実施し、「笑顔で敬語。丁寧な言葉遣い」等をケア目標として掲示している。職員は個々に合わせた呼称での声かけや入居者目線で会話し、人格の尊重に努めている。又、トイレ誘導については食事時間等はリビングから離れたトイレを使用し、プライバシーに配慮している。個人情報適切な取り扱いや守秘義務の遵守等、情報管理に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご利用者に合わせた声掛けを行い意思表示が困難な方には行動・表情の観察をしながら本人に合った自立支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭を基本とし、時間にとらわれず個々のペースで食事を摂られている。また、散歩や買い物等には職員が付き添って出かけ本人の主張・希望を尊重している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お声掛けをしながら整容等自立支援にて行っている。また衣類も自分の好みで着用して頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には、栄養士作成の献立表に沿って提供している。希望があれば好みの食事も提供している。片付けは茶碗拭きなど出来る範囲で取り組んでもらっている	法人栄養士の作成した献立を使用し、時には頂きものや入居者の希望等に変更しながら調理している。高齢化や重度化により、ミキサー食や食事介助が多くなってきているが、入居者によっては「さあ、仕事に行かなん」と食器拭きに携わったり、買い出しに同行されている。職員は介助や声かけしながら食の進み具合を見守ったり、イベント時は一緒に食事を摂っており、外食へも出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のメニューをもとに料理を作り食べて頂いている。毎食の摂取量は記録し苦手な食材は形を変え栄養のバランスを考えている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で可能な方は起床時と毎食後に歯磨きの声掛けを行っている。介助必要な方は毎食後の口腔ケアを職員と一緒にしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の自立度や排泄パターンを認識し、自然な排泄が出来る様支援。便秘がちな人には牛乳やヨーグルト等で排便を促している	一人ひとりの排泄状況を把握し、訴えや声かけで誘導する等必要に応じて介助を行っている。又、個々に合わせ下着や排泄用品の組み合わせを検討したり、昼夜で使い分ける事で安眠やコスト削減に繋げ、失敗時やトイレ使用後の確認等はプライバシーに配慮しながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活の中で、体操や散歩で体を動かして、水分補給、牛乳、おやつ時のヨーグルト等の摂取試みているが、それでも排便が無い場合は医師の診察により下剤の服用をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の状況により入浴の必要がある方や希望の場合も含め柔軟に対応している。入浴困難な方に対しては、清拭により清潔の保持に努めている	ゆっくりと湯舟に浸かり職員と会話したり、汚染時のシャワー浴等入居者の体調や希望に合わせて支援しており、拒否に対しては本人の様子を察しながらタイミングを見計らって声かけしている。重度化した場合には母体の機械浴の使用も可能であり、ホーム浴室は改修が行われ安全性が確保されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の体調、表情を観察し活動を促し生活のリズムを整え、夜間はゆっくり休んでもいただけるよう努めている。寝つきが悪いときは声掛けしお茶などをあげて会話し自然に眠られるよう環境を整えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のファイルを使用し、職員が目的・用法・用量・副作用など確認出来るようにしている。薬は全部施設管理し服用時は手渡し、服薬確認をしている。症状に変化が見られた場合は詳しく記録に残している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器ふき、洗濯たみはひとり一人に合った役割を見つけて取り組んで頂いている。外出や地域の行事への参加をしたりして、心身活性化の支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出の機会や計画的に苑外行事を組み、気分転換を行っているが、入居者本人からの希望に沿う形での外出支援が出来ていないのが課題である	近隣商店への買い物や玄関先を通る地域祭り見物や、外出行事としてきんもくせい見物に出かけたり、法人施設との交流・全員での花見等を支援している。個々の希望に合わせた外出については家族の協力を得ながら、仏壇参りや外食等が行われている。	職員は入居者に希望される外出先を聞き取りしているが、行きたいところの希望がないのが現状として、企画した外出や日常生活の中で散歩や買い物が支援されている。今後も継続した外出により、社会性等の継続に繋げていきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な入居者がいない為、御家族からの希望により職員が入居者に必要な物を購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の電話希望時は職員がついて介助、必要に応じ電話を代わり内容の伝達を行っている。手紙に関しては家族の協力も必要となり実現には至っていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物自体が縦長で、すべての空間が一直線上にわかりやすく並んでいる。その為モップ掛けや掃除がやりやすく清潔な空間作りに取り組んでいる	玄関やリビングホールには季節毎の飾り付けを行い、職員自らがワックスがけや障子の張替えをしながら環境整備に取り組んでいる。縦長の造りを生かし、廊下での歩行訓練や、壁面には外出時の入居者の写真等、職員の工夫により限られたスペースを有効に活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物のスペースの関係で、独りで過ごせる空間が居室にしかなくなかなかゆっくり過ごしていただけないのが課題である		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みのタンスや写真など利用者の思い出の品物が持ち込まれ住み心地の良い部屋作りに努めている	居室の内障子は日差し除けや落ち着いた雰囲気となっており、ベッド位置も個々に合わせ様々である。タンスや家族写真等入居者の馴染みの品物が持ち込まれ、担当職員と一緒に衣替え等を行っている。又、排泄用品等についてはプライバシーに配慮し収納している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	床は段差が無い為老人車での歩行も可能である。ただ、手すりについては居室入り口や廊下の腰掛があり続いているのが欠点である		